

2月の銅スクラップレポート及び3月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

概況：前半はギリシャ政府と民間の債務交換会議（債権の割引）の進展やEU会合で欧州安定メカニズムの約5000億の前倒しなどプラス材料を好感し急騰するも、結局はギリシャ国民のデモによる政府との関係悪化、それに伴うユーロ会合でのギリシャ支援を嫌気し急落8405ドル(セツル)と約300ドル乱高下しての前半締めとなった。

後半は2月のユーロ圏PMI指数の悪化や欧州委員会での欧州圏のGDP下方修正などを嫌気するもギリシャ支援について合意がされたことやNYダウが3年9が月ぶりに13000ドル台を突破したことを好感し上昇。3月6日現在、8502ドル(セツル)と前半締めから50ドル強上昇 建値73万円のスタートとなった。

経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比-1.3%の84万837197台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比+26.6%の33万3213台(前年比+31.9%)。3カ月間の自動車生産計画は昨年対比+80.8%の269万6500台となった。国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)-5%(昨年比-7.3%)の6万9069戸であった。財務省貿易統計によると輸出は前月比で、電気銅が-22.2%2万8061t、スクラップが-47.5%の1万3488t。輸入は、電気銅が前月比+3.1%の3758t、スクラップ+22.9%の6286tとなった。

国内指標：日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前月比-9.4%の6万100t(昨年対比-9.5%)、日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前月比-1.1%の5万6000t(昨年対比-1.2%)となった。

見通し：前月から自動車関連以外がさらに悪化が

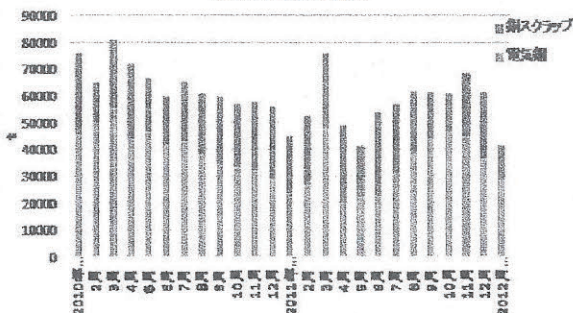
進んだ月となった。自動車生産は前年比+18.6%の83万7179台と6カ月連続上昇し下振れ懸念もよそに堅調に推移。国内自動車販売台数も33万3213台と前年比+31.9%と急上昇、また2-4月の自動車生産計画が+80.9%と自動車関連は絶好調で、自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比-9.4%の6万100tの昨年対比(-9.5%)。8カ月連続の前年割れとなった。

銅電線出荷量は、前月比-1.1%の5万6000t、昨年対比-1.2%と小幅悪化 自動車向けに助けられた形だがその他の悪化をカバーできず。新設住宅着工数は季節調整前月比+5%の6万5984戸。前年比は-1.1%とここ数カ月一進一退で急回復はなくこの調子が続きそうである。輸出に関しては緊急輸入の電気銅の荷余り感が改善、電気銅輸出が前月比-22%の2万8061tと3カ月連続減少。輸入は電気銅は需給の調整が進んでいるもののスクラップは自動車の生産の回復から前月比+23%の6286tとなった。銅需給に関しては、自動車関連の本格的な需要が現実味を帯びてきており、販売面で自動車が前年

	11月	12月	1月
生産台数	83万 8335台	84万 8268台	83万 7197台
前月比	-7.3%	+1.2%	-1.3%
昨年対比	+4.5%	+13.4%	+18.6%
12月	1月	2月	
販売台数	22万 1960台	26万 3267台	33万 3213台
前月比	-12%	+18.6%	+26.6%
昨年対比	+23.5%	+40.1%	+31.9%
2月	3月	4月	
生産計画台数	95万 2千台	97万 7200台	76万 7300台
前月比	+22.8%	+2.7%	-21.5%
11月	12月	1月	
新設住宅着工数	7万 2635戸	6万 9069戸	6万 5984戸
季節調整 前月比	+9.1%	-5%	+5%
昨年対比	-0.3%	-7.3%	-1.1%
輸入	11月	12月	1月
電気銅	4650 t	3646 t	3758 t
前月比	+36.8%	-21.6%	+3.1%
スクラップ	4666 t	5114 t	6286 t
前月比	-16.7%	+9.6%	+22.9%

輸出	11月	12月	1月
電気銅	4万 4632t	3万 6046 t	2万 8061 t
前月比	-4%	-19.1%	-22.2%
スクラップ	2万 3684t	2万 5687 t	1万 3488 t
前月比	+58.1%	+9.8%	-47.5%

10-11年銅輸出推移



10-11年銅輸入推移

